

トイレの と



Contents

JAPAN TOILET ASSOCIATION



- 1 2025年度第41期 定時総会開催のお知らせ
- 2 法人会員の会 -交流会の開催報告-
- 3--6 活動報告 ノーマライゼーション研究委員会
- 7 新法人会員のご紹介
- 8--10 活動報告 メンテナンス研究会 定例研究会の報告
- 11 私の推薦トイレ
- 12 リレートーク
- 13--14 若手の会flush活動報告
- 15--16 「災害時のトイレ（携帯・簡易トイレ）」研修会
- 17 会員活動の紹介
- 18 新入個人会員のご紹介

日本トイレ協会は、創立 40 周年を迎えます。

2025 年度（第 41 期）定時総会を下記の通り開催します。本年は日本トイレ協会創立 40 周年にあたります。創立以来の協会の歩みを振り返り、そして未来へ繋ぐ機会として「記念講演・トークセッション」を企画いたしました。定時総会及び記念講演・トークセッションの様子は ZOOM によるオンライン配信もいたします。また、記念講演・トークセッション後には創立 40 周年記念パーティを開催いたします。

なお、記念講演・トークセッション及び創立 40 周年記念パーティは会員だけではなく、どなたでもご参加いただけますので、広くお声掛けいただき、お誘いあわせの上ご参加ください。ご多用とは存じますが、みなさまと共に日本トイレ協会の創立 40 周年を祝う場といたく、是非ご参加いただきますようお願い申し上げます。

1. 日時
2025 年 6 月 14 日（土） 受付開始 13 時 30 分
定時総会 14 時 00 分 ～ 15 時 45 分
記念講演・トークセッション 16 時 00 分 ～ 18 時 15 分
創立 40 周年記念パーティ 18 時 30 分 ～ 20 時 30 分
2. 会場
機械振興会館（東京都港区芝公園 3-5-8）
定時総会・記念講演・トークセッション地下 3 階 研修室 -1
創立 40 周年記念パーティ 地下 3 階 研修室 -2
3. オンライン配信 ZOOM ミーティング
開催前日までに ZOOM 総会への参加招待をメール送付及び HP 会員ページへの掲載により共有します。
4. 表決方法 Google フォームを利用した事前表決または委任とします。
メール登録のない会員へはハガキにより事前表決をして頂きます。
また、当日会場参加される場合は、受付を通過することにより事前表決は無効となり会場での議決権行使が有効となります。
5. プログラム 記念講演 『(仮) 日本トイレ協会の 40 年を振り返る』
講師：高橋志保彦名誉会長
トークセッション
テーマ：トイレ協会の今後を語る
登壇者：高橋志保彦名誉会長、山本耕平会長、高橋未樹子理事、新妻普宣運営委員、
山戸伸孝運営委員、矢口絵理奈若手の会代表
6. 創立 40 周年記念パーティ 参加費 6,000 円（学生は 2,000 円）
記念パーティでは、創立 40 周年を振り返るスピーチやスライドの上映等を予定しています。

定款第 13 条に基づきまして、5 月に予定している理事会決議の後、正式な定時総会開催通知を総会資料と合わせてお送りします。



機械振興会館へのアクセス

<https://www.jspmi.or.jp/kaigishitsu/access.html>

法人会員の会 -交流会の開催報告-

田村房義 「法人会員の会」代表 / 運営委員

法人会員の会では、2023 年度の発足以来、法人会員の皆様の協会入会の満足度向上を目的に、アンケート調査を通じて協会活動等へのご意見やご要望等を伺ってまいりました。その結果、「交流会の開催」を強く求める声が多く寄せられました。この結果を踏まえ、2024 年度に法人会員向けの交流会を開催することとなりました。

参加された法人の皆様から直接協会活動等へのご意見やご要望等を収集する場を企画し、「第一回法人会員交流会」を、2 月 28 日（金）16 時～19 時、東京御茶ノ水の貸切ダイニング “KZ（ケーズ）” で開催しました。月末の開催に関わらず、大阪、長野、石川等の遠方からの法人様の参加もあり、協会入会の 59 法人中 19 法人の参加申込、当日参加 18 法人 22 名の法人会員の皆様に参加頂きました。

企画、準備段階では、初めて開催する交流会をどのような形で開催したら、より多くの法人会員の皆様に参加いただけるか、どんな内容の交流会にしたら参加される法人の皆様が満足いただけるのか、全く分からない中で、交流会の場所探しから企画内容の検討、法人会員への交流会参加募集（メール配信および直接電話での勧誘等）、参加される法人様へ自社紹介等のプレゼン資料の準備依頼等のやり取り、交流会開催に向けた細々とした準備等、交流会当日の開催時間までバタバタと準備してきて、何とか交流会にこぎつけた次第です。

交流会では、交流会開催の主旨説明、昨夏実施のアンケート調査結果の開示、参加法人様全員から会社紹介（自己紹介含む）の 3 分プレゼン、意見交換（交流会参加の感想や協会活動へのご意見やご要望等の発言）を行い、皆さんで盛り上がりました。

参加された皆様からは、自社 PR ができたこと、各研究会以外の法人（企業）様と交流ができたこと、色々な企業の話が聞けて勉強になった、など交流会への好評価意見が多く、また、法人会員で何か新しい取組みが出来るの良いね、国等の求める規格等を発信していけると良いね、等の前向きな意見も出てきており、現在、公共トイレを話題に、会員同志がお酒を飲みながら交流する場が少ないので、今後も交流会の継続を望む声が多く参加者から出ていました。

法人会員の会としては、交流会に参加された皆様のご意見やご要望等の分析、参加された法人様への追加アンケート調査等の結果を踏まえ、法人会員の皆様に満足いただける交流会開催に向けた企画検討を開始しております。今回、ご都合がつかず交流会に参加されなかった法人会員様も次回以降の交流会には是非参加検討いただけるよう、よろしくお願いいたします。尚、2025 年度の法人会員交流会は、8 月頃と 2 月頃の 2 回開催を予定しております。



集合場所



代表挨拶



自社紹介・意見交換

視覚障害者を対象とした公共トイレの利用に関する調査報告

1. 調査の概要と目的

この調査は、視覚障害者（以下「当事者」という。）が公共トイレを利用する際に困っていることや、要望などを把握するために行われた。当事者から寄せられた意見（要望等）を分析することで、公共トイレのアクセシビリティ向上に役立てることを目的としている。

ここでは、標記調査での回答のうち、「意見や提案に対する自由回答」に関するものを分析等した結果を示す。分析は、KH Coder を使用して実施した。

2. 回答者数 (Google, Mail)

標記調査について、Google Forms、Mail での回答数、及びその属性（見え方、性別、年代）を下表に示す。今回の調査では、回答者の属性に偏りが見られた。そのため、分析結果を全体に一般化するには限界があるため、得られたデータから傾向を把握し、今後の参考とすることとする。

回答方法	回答数
Google Forms	34
Mail	18
合計	52

表 1 回答数

属性	内訳
見え方	弱視: 16, 盲: 22, ロービジョン: 14
性別	男性: 24, 女性: 28
年代	40代: 9, 50代: 17, 60代: 15, 70代: 11

表 2 回答者の属性

3. 調査結果

3-1. 共起ネットワーク

自由回答をテキストマイニングした後、作成した共起ネットワークを下图に示す。

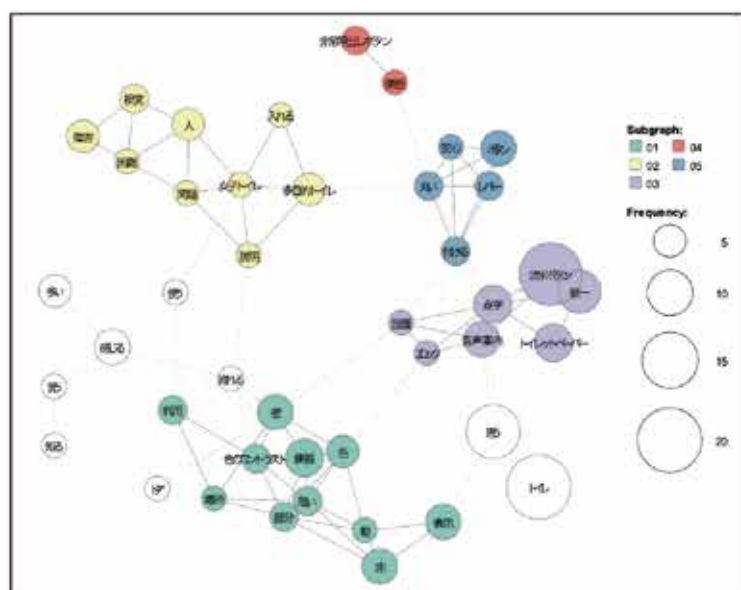


図 1 共起ネットワーク

この共起ネットワークから、視覚障害者の公共トイレに対する要望を分析したものを以下に示す。なお、共起ネットワーク作成に先立ち、流すボタン、音声案内、非常呼び出しボタン等、前処理（用語の統一等）を実施した。

1) 中心的なキーワード

「流すボタン」「トイレトペーパー」がネットワークの主軸に位置し、多くのキーワードとつながっていることから、トイレの使い勝手に関する要望が多いことが分かる。「点字（表示）」「音声案内」といったキーワードも目立ち、視覚障害者にとって情報アクセスが重要な課題となっている。

2) キーワード間の関係性

「ボタン」と「設置」「統一」といったキーワードがつながっていることから、ボタンの配置や操作方法に関する要望があることが分かる。「点字（表示）」と「音声案内」がつながっていることから、情報提供手段の多様化を求める声があることが分かる。

3) 特に目立った特徴

「安心」「感じる」といったキーワードが目立つ。これは、視覚障害者が安心してトイレを利用できる環境が求められていることが示唆される。

4) 視覚障害者の公共トイレに対する要望

これらの分析結果から、視覚障害者の公共トイレに対する要望は、以下の点が重要であると考えられる。

- 情報アクセス：点字や音声案内など、視覚障害者でも情報を得やすい環境の整備
- 操作性：ボタンの配置や操作方法の統一など、分かりやすく使いやすい設備の導入
- 物理的な環境：ドアや床、壁など、移動しやすい空間の確保

これらの分析結果から、公共トイレのアクセシビリティ向上に向けた具体的な提案として、以下のようなものが考えられる。

- ボタンの形状や配置を統一し、操作方法を分かりやすくする。
- トイレの入口に音声案内装置を設置し、トイレの場所や設備に関する情報を提供する。
- ドアや床、壁に色のコントラストを付け、視覚障害者でも認識しやすくする。

4. 対応分析

4-1. 見え方

自由回答をテキストマイニングし、対応分析（外部変数「見え方」）した結果を以下に示す。

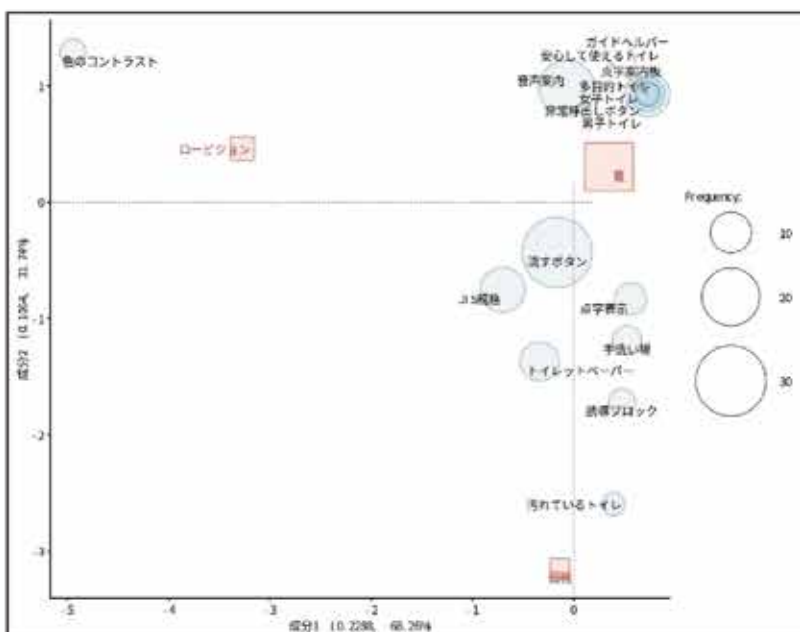


図2 対応分析（見え方）

1) ロービジョン

図の上左の領域に位置する「ロービジョン」は、「色のコントラスト」に関する要望が多い。例えば、トイレの床や壁、便器などの色にコントラストをつけることで、より認識しやすくなることが示唆される。

2) 弱視

図の右下の領域に位置する「弱視」は、「汚れているトイレ」に関する要望が多い。例えば、トイレの汚れていることのわかる情報を要望されている。また、「弱視」は、図の右の領域に位置する「盲」の要望も高いと示唆される。

3) 盲

図の右の領域に位置する「盲」は、「流すボタン」「非常呼び出しボタン」「JIS 規格」といったキーワードも近くに位置しており、トイレ全体の設備や操作方法に関する要望も高い。トイレに関する「点字表示」「音声案内」「点字ブロック」といったキーワードとの関連も強く、触覚や聴覚による情報提供が重要であることを示している。また、「安心して使えるトイレ」というキーワードも近くに位置しており、安全に移動できる環境が求められていることが示唆される。

4) 見え方による公共トイレに対する要望

これらの分析結果から、視覚障害者の見え方によって、公共トイレに対する要望が異なることが分かる。

- ロービジョン：色やコントラストによる視覚的な情報提供が重要
- 盲、弱視：点字や音声案内など、触覚や聴覚による情報提供が重要。
また、触覚で周囲の環境を認識できるような工夫が重要。

4-2. 年代

自由回答をテキストマイニングし、対応分析（外部変数「年代」）した結果を以下に示す。

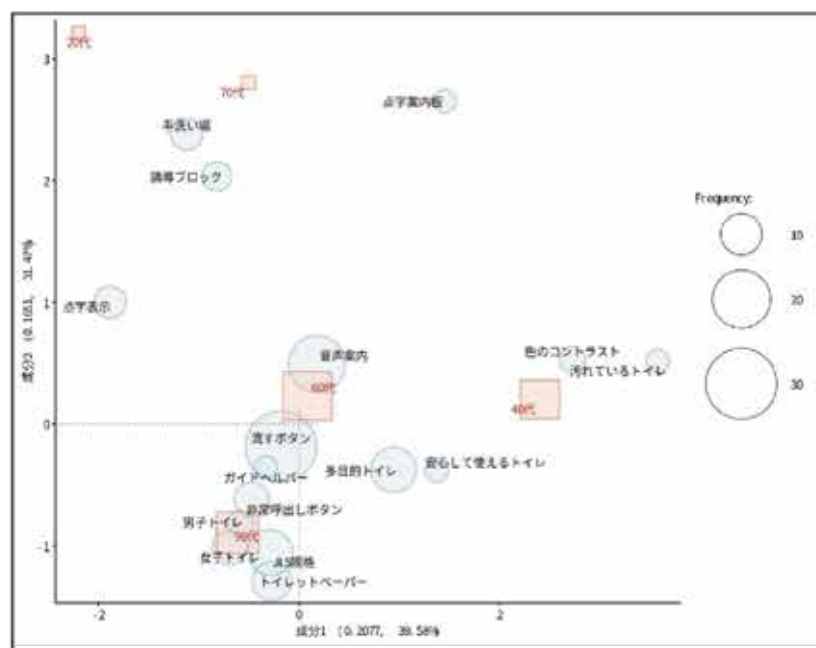


図3 対応分析（年代）

1) 40代

図の右の領域に位置する「40代」は、「色のコントラスト」に関する要望が多いことが分かる。さらに、「安心して使えるトイレ」といったキーワードも関連しており、安全で快適なトイレ環境を求めていることが示唆される。

2) 50代

図の中央下の領域に位置する「50代」は、「JIS 規格」「トイレットペーパー」「流すボタン」といったキーワードも近くに位置しており、トイレ全体の設備や操作方法に関する要望も高い。なお、「非常呼び出しボタン」は、「流すボタン」操作時の誤操作回避に関する要望が示唆される。

3) 60代

図の中央の領域に位置する「60代」は、「流すボタン」「非常呼び出しボタン」「JIS規格」といったキーワードも近くに位置しており、トイレ全体の設備や操作方法に関する要望も高い。またトイレに関する「音声案内」といったキーワードとの関連が強く、触覚や聴覚による情報提供が重要であることを示している。さらには、「安心して使えるトイレ」というキーワードも近くに位置しており、安全に移動できる環境が求められていることが示唆される。

4) 年代による公共トイレに対する要望

これらの分析結果から、視覚障害者の年代によって、公共トイレに対する要望が異なることが分かる。

- 40代：色やコントラストによる視覚的な情報提供、安全で快適なトイレ環境
- 50代：設備の設置場所や操作方法の統一性
- 60代：設備の設置場所や操作方法の統一性、点字や音声案内など、情報アクセスや操作性、緊急時の対応、安全で快適なトイレ環境

4-3. 性別

自由回答をテキストマイニングし、対応分析（外部変数「性別」）した結果を以下に示す。

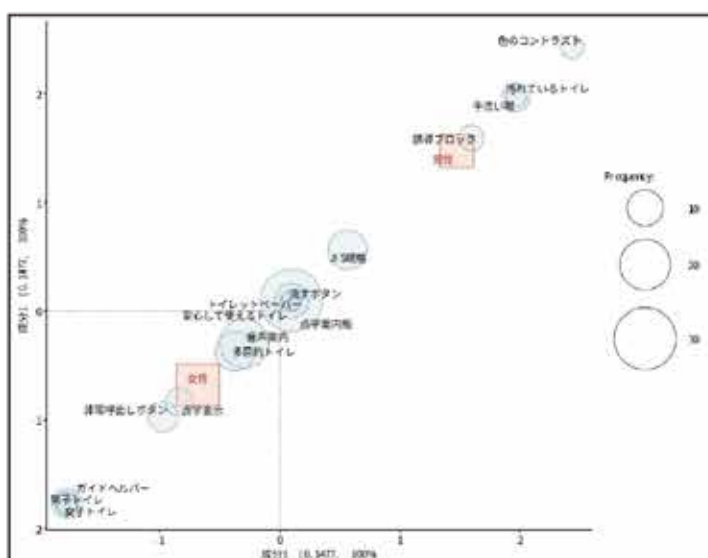


図4 対応分析（性別）

1) 女性・男性共通

図の左下の領域に位置する「女性」と、図の右上の領域に位置する「男性」の中間に「流すボタン」「非常呼び出しボタン」「JIS規格」といった主なキーワードが位置しており、トイレ全体の設備や操作方法に関する要望が女性・男性から高くなっていることが示唆される。また、「安心して使えるトイレ」というキーワードも近くに位置しており、女性・男性から安全に移動できる環境が求められていることが示唆される。

2) 性別による公共トイレに対する公共トイレに対する要望

これらの分析結果から、視覚障害者の性別による公共トイレに対する主な要望に違いはないことが分かる。

女性・男性共通：設備の設置場所や操作方法の統一性

5. まとめ

今回の調査結果から、視覚障害者の方が公共トイレを利用する上で、情報アクセスのしやすさ、使いやすさ、安心して利用できる環境が重要であることが示唆された。

視覚障害者の見え方や年代によって、具体的な要望には違いがあるものの、誰もが安心して利用できる公共トイレの実現に向けて、設備の改善や情報提供の充実が求められる。



うちにプロ

株式会社ゼロアクセル

<https://ouchipro.com/>



日本トイレ協会への入会のきっかけはなんでしょう。

弊社は、ハウスクリーニングの予約サイト「うちにプロ」を運営しておりますが、プロによるトイレクリーニングのお申し込みが、他のハウスクリーニングメニューと比べるとまだまだ少ない状況です。しかし、自宅のトイレをより清潔で、より安全な環境にしてくれるのが、プロによるトイレクリーニングです。このような課題を抱えていた中で、トイレに関する社会的課題の改善に尽力する日本トイレ協会様に感銘を受け、今回ご入会させていただきました。

会社紹介、事業内容を教えてください。

弊社（株式会社ゼロアクセル）が運営する「うちにプロ」は、ハウスクリーニングをはじめとする多種多様な出張訪問サービスの予約サイトです。お客様は、自分の地域や受けたサービス内容、価格などといった条件から簡単に多数の業者を比較することができます。また、業者ごとに実際の利用者からの口コミも寄せられているので、より現場のイメージがつきやすくなっていることが特徴です。

ご登録いただく業者様には、入会金や継続的な掲載費などは一切かからず、実際にサービスを実施した際にのみ、システム利用料として、サービス料金の18%をいただいております。

掲載への負担が抑えられるだけでなく、各事業者様のサービスページ作成のお手伝いをさせていただいておりますので、全国各地、多様なサービス内容をご登録いただいております。

（担当者さまへ質問です）あなたのお好きなトイレを教えてください

実際に見たことはありませんが、漫画「ONE PIECE」の作者、尾田栄一郎先生のご自宅のトイレが印象的でした。便器のすぐ上から大きなサメの頭のオブジェが飛び出しており、照明は青一色。まるで海の中にいるような空間が広がっているトイレでした。壁面にも海中を泳ぐサメたちの絵が描かれており、細部までこだわりを感じます。自宅のトイレを自分でとことんこだわってデザインする。そうすることで、自宅のトイレが「用を足す場所」を超え、「自分の心が満たされる憩いの場」への昇華するのではないかと感じました。

白倉正子 メンテナンス研究会 副代表幹事 / 運営委員

日本トイレ協会の傘下にあるメンテナンス研究会は、1992年4月に発足し、33年目を迎えました。今回は記念すべき200回と201回の定例研究会の様子をご紹介します。

第200回記念定例研究会／2024年12月18日（水）

テーマ：NEXCO中日本管内の休憩施設の最新トイレのメンテナンス状況の視察と
意見交換会ツアー（1日目）
…駒門PA/浜松SA/新城PA視察＋意見交換会＋記念懇親会

近年、特にきれいになったと評判の高速道路のトイレが、どの様に工夫して維持管理をしているのか？を視察するため、同社の山本浩司さんにお力添えをいただき、18名でツアーを行いました。

最初に到着したのは、駒門PA。こちらのトイレは、“お客様のスムーズなご利用”をテーマに整備。一目で見渡せる「パノラマ視点」を導入したレイアウトになっており、とても広々としていました。清掃時にはカーテンで空間が仕切られるので、お客様にもスムーズに使用していただけます。なお珍しい設備としては、男性の小便器の左右にある仕切り板に消臭効果を試験的に搭載したこと。幅6センチの壁の下部が吸い込み口になっており、尿の垂れによる悪臭を吸い込み、仕切り板内で消臭させ、上部から放つという「隠れた技」が魅力的でした。

2番目に視察したのは、浜松PA（下）。ここではロボットによる床面の清掃を実施しており、少量の水とスポンジによる乾式清掃の様子を実際に拝見しました。ロボットに事前に記憶させたルート上を、定期的に水を床に噴霧し、後方で擦りながら前に進み、汚れた水分をパキュムで吸い上げて進むという優れもの。この導入により、清掃員の負担が減ったそうです。

3番目に視察したのは、新城PA（下）。再生可能資源である木材を用いて、持続可能な社会構築に貢献したいと改築。入った瞬間に杉の香りがする素敵なトイレです。また初めての試みとして男性トイレの大便器ブースにサンタリーボックスを設置。尿漏れパッドなどの処理に密かに悩んでいた男性らが待ち望んだ設備でしたので、参加者も興味深く観察していました。

視察後には豊田保全・サービスセンターに移動して意見交換会を…。参加者からも質問をしましたが、逆にNEXCO中日本様側からも、メンテ研の会員に質問が…。「木材の清掃方法の良い管理の方法は？」「清掃ロボットの今後の拡大戦略は？」など、新たなチャレンジの始まりの予感がしました。全体的には、NEXCO中日本のきめ細かく、具体的な取り組みに、参加者が圧倒された一日となりました。

翌日は、有志で、愛知県と岐阜県のちょっとユニークなトイレを視察。愛知県の刈谷ハイウェイオアシスのデラックストイレを訪問し、リビングのようなくつろげるトイレを目指したエピソードを管理者の方から伺いました。その後は岐阜三輪PAのトイレへ。担当者の豊田誠さんの直接の説明を伺い、細部にまでこだわったエピソードを伺いました。例えば床材の選び方も、「床に水が跳ねても、滑らず、目立ちにくい色と素材を、何度も試験をして選んだのですよ」という、参加者がみんな感心しきりでした。織田信長にちなんだトイレもユニークでした。

こうして最新の設備に触れ、メンテナンス従事者の生の声を聞くことにより、メンテ研会員も刺激をいただくことができました。この実体験がノウハウとなって、日本の文化や技術として世界から称賛されることも、ありえると思える、意義深い機会となりました。



①駒門 PA のトイレ視察の様子



②消臭効果のある仕切板



③浜松 SA の床清掃ロボット



④意見交換会の様子



⑤刈谷ハイウェイオアシスの
デラックストイレ



⑦岐阜三輪 PA の織田信長を
モチーフにしたトイレブース



⑥デラックストイレ内の VIP トイレ

第201 回定例研究会／2025年1月28日（火）

テーマ：スリーエム ジャパン株式会社

3Mカスタマーテクニカルセンターへの視察（神奈川県相模原市）

この回では、様々なテクノロジーを駆使して、世に画期的な製品を送り出しているスリーエムジャパン（株）様の「3M カスタマーテクニカルセンター」を訪問させていただきました。この会社は、付箋（＝ポストイット）を開発した会社と言え、ピンのくる人も多いことでしょう。

そうした「今まで無かった物」を作るのが得意な会社が、数年前にトイレ用のブラシを開発。便器のしつこい水垢などの汚れを、傷つけずに擦ることができるスポンジを開発されました。それ以外にも、清掃のしやすい床材・天井・タイル壁材、狭いトイレをたった1枚でキレイに拭きとることが出来るパッドとその柄など、独自の技術で製品展開をなされている様子を披露していただき、参加者からはその奥深さにため息がこぼれるシーンが何度もありました。

後半は、メンテ研の会員の代表者5名から、「今後気になるトイレメンテナンスの視点／今後欲しいメンテナンスの道具の視点」をテーマに、短時間プレゼンを実施。例えば「洗面台の排水管に落ちたピアスなどを、簡単に回収できる道具が欲しい」や「災害時の水が無い被災地での、トイレを快適にする道具があったら喜ばれる」などの指摘がありました。

またメンテ研の会員で独自のブラシ開発をしている星野延幸さん（アメニティ代表）からは、「スリーエム社のブラシはもっとこうしたらいいよ…」との具体的なアドバイスまで…（汗）トイレを知りつくした会員と、高い技術を有するスリーエム社の社員が、お互いにぶつかり合う、刺激的で有意義な研究会となりました。



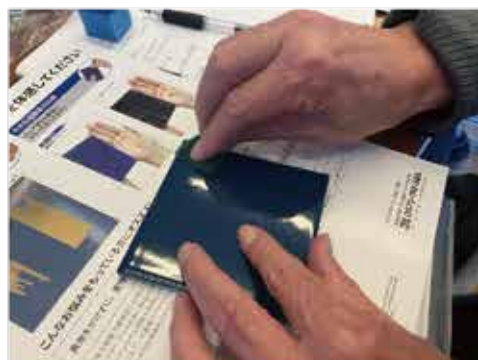
①会社の歴史や製品作りのこだわり視聴



②トイレ用のモップの開発を伺った



③メンテ研会員からも提案プレゼン



④製品の傷つきにくさを体験



⑤たくさん頂いたサンプル品



⑥会社ロゴマークの前で記念撮影

私の 推薦トイレ

荻野 雄仁

SFA Japan 株式会社 ゼネラルマネージャー
法人 B 会員

私の推薦したいトイレは、昨年末に社内の忘年会時に乗船した屋形船のトイレです。トイレ環境が変わったことで一人の女性の人生が変わった、そんな話を皆様にご紹介したいと思います。年末の両国、大相撲春場所が佳境に入り、賑わいを見せる中、年間予算を達成した我々の会社では、両国発の老舗乗合屋形船「晴海屋（はるみや）」さんにて、忘年会を行いました。我々が乗船した船は「じゃんぼ」という船名で定員99名、全長26m、屋上にはスカイデッキもある屋形船でした。19時きっかりに出航し、我々はスカイツリー・お台場を遊覧しながら、約2時間半の食事を楽しみました。非日常を味わいながら、楽しい宴席も進み、トイレへ向かうと、屋形船の後方には二つのトイレがありました。中に入ると普通のトイレよりも一段高い位置に洋式の水洗トイレが設置されており、座面も高く、変なトイレだと思いながら、水を流すとトイレの後ろからブォーンとどこかで聞いたことがあるモーター音が、トイレの後方を覗くと、そこには我々の製品であるサニアクセス3が取り付けられておりました。この製品は、壁排水タイプのトイレの真後ろに設置することで、天井・壁を通して細い配管で排水を圧送することが出来るポンプユニットです。水まわりがない場所や勾配がとれないところへの水まわり改修で一般的には使用されます。元々水まわりがあった場所に設置されており、どうして設置されたのか釈然としない中で、トイレを出て席に戻ろうとすると、目の前に20代くらいの若い女性が配膳の準備をしていました。なぜこのトイレが今の設置状況になったのか、どうしても気になった私は、その女性に思い切って尋ねてみることにしました。「トイレの後ろについているポンプを製造しているメーカーのものなのですが、あちらのトイレは増設されたのですか？」彼女は、驚いた表情でこちらを見て「ありがとうございます！あの製品のおかげで私は救われました！」と目を輝かせながら、急にお礼を言われた私は狼狽していると、トイレの設置経緯を彼女は話してくれました。

この「じゃんぼ」という屋形船は、歴史が長く、和式トイレが設置されていたそうです。時代の流れとともに、トイレを和式から洋式へ改修（トイレが一段上がっていた理由です）、空調設備の入れ替え等、内部を何度も最新の設備に改修していくと、船はどんどん重くなっていきます。そうすると喫水線（船の浮かぶ水面の高さ）が上昇します。喫水が深くなることで水面よりも下に既設配管が来てしまい、排水不良になるという事が起こるそうです。彼女は、洋式トイレへ改修されてからというもの、溢れてくる汚水を毎日毎日雑巾で拭くという作業を行っており、仕事中に顔をぶつけ前歯がかけたり、不運な事が続いていたとの事でした。そんな中、我々の事を知っていた設備業者さんが、既設配管を潰して排水圧送ポンプで喫水線よりも上の天井で排水を処理する方法へ是正、排水不良は改善され、彼女のつらい日々は終わりを迎えたとの事でした。トイレ環境が悪くなり、日々の生活にも憂鬱になっていた彼女を助けられた事は、トイレ環境に新たな価値を創造する事ができた経験として、とても印象に残ったトイレになりました。これから春を迎え隅田川沿いは満開の桜が咲きます。是非これからの時期に晴海屋さんの屋形船（じゃんぼ）に乗船してみたいはいかがでしょうか。



トイレを共に生きてきた人生

矢口絵理奈 設計事務所ゴンドラ

若手の会flush代表・ノーマライゼーション研究委員会事務局

私は昔から、トイレと縁のある人生を送ってきました。小さな頃からお腹が弱く、緊張したり、食事をしたり、車に乗ったりするたびにお腹を壊し、トイレに駆け込むことがよくありました。毎回トイレを探し、付き添ってくれた親には、きっと大きな負担をかけていたと思います。

幼少期、祖父母の家はまだ和式トイレでした。当時の私は足の力が弱く、和式トイレに慣れていなかったため、長時間しゃがむことができず、母や祖母に後ろから支えてもらいながら用を足していました。やがて祖父母が歳を取り、和式トイレを使うことが難しくなったこともあり、家のトイレは洋式に改装され、手すりも取り付けられました。今ではそのトイレを使うたびに、「かつて私を支えてくれた祖母を、今はこの洋式便器と手すりが支えてくれているんだな」と感じています。

中学・高校時代も胃腸は弱いままでしたが、休憩時間の10分間では同級生が並んでいる満室のトイレでは小はできても大はできず、離れた保健室前の個室トイレまで行っていました。その移動だけで時間が過ぎてしまいます。間に合わない場合は「遅刻届」を提出して授業に出なければなりません。教室に戻ったときに毎回授業を中断させてしまうためクラスメイトからの視線が苦しく、そのままトイレで1時間を過ごしてしまうこともありました。同級生と同時にトイレで擬音装置を使って用を済ませ授業の開始に間に合わせる、そんな些細なことすら、私にとっては高いハードルでした。

中学2年から高校2年までの4年間は、寮生活を送りました。女子寮は20名ほどの生徒がいる中で、隣同士で「大」をしたことは一度もありませんでした。寮には擬音装置がなかったため、同じスケジュールで生活していても、お互いのタイミングや場所を自然にずらし合い、尊厳を守っていたのだと思います。卒業後に寮生たちと話した際にも、「毎日一緒にお風呂に入ることはできても、排泄（大）はなるべく知られたくなかった」と意見が一致し、あの年頃の私たちがプライバシーに関して譲歩できない線引きの感覚をお互いに持っていたことを改めて実感しました。

そんなある日、実家に帰省していた際、夜中に何気なく観たテレビ番組が人生を変えるきっかけになりました。それは、東京タワーの特別展望台のトイレ改装を特集した番組でした。非日常の象徴である東京タワーの中で、その高揚感を損なうことなく、幻想的で心地よい空間として設計されたそのトイレに、私は衝撃を受けました。「こんな空間なら、悔しさや居心地の悪さを感じずにいられる」と感じたと同時に、「トイレという空間を改善しようと考えてくれている人がいるんだ」ということを初めて知った瞬間でした。

進路を考えることになった際、医療系の道を目指していた私は、自分のこれまでの「トイレとの苦い思い出」が、空間をつくる側に立つことで活かせるのではないかと考え、大学受験の際に建築の道を志しました。そして昨年、あの番組で見た設計者とともに、リニューアルされた東京タワーの特別展望台のトイレを訪れることができました。私の中でひとつの人生に区切りがついたような、そんな達成感を覚えました。

今までの人生の中でトイレをうまく使うことができず親や親戚に体を支えてもらったことや、学校で排泄が原因で休み時間に同級生とトイレの利用ができず授業に支障がでたこと、出先で何度もトイレを探し回ったことなど、様々な経験を活かし、心理的にも身体的にもストレスを感じず、誰もがトイレを利用することや排泄をする事が嫌にならず、清々しい気持ちになれるようなトイレ空間を、多角的な視点から検討を行い設計していきたいと思っています。

矢口絵理奈 若手の会flush代表 / (有)設計事務所ゴンドラ

1.はじめに

一般社団法人 日本トイレ協会若手の会 flush（以下、flush）は、日本トイレ協会の 39 歳以下の法人会員、個人会員、学生会員の有志によって結成されており、トイレに関心のある様々なジャンルの職種のメンバーがトイレに関する情報交換や調査を行っています。

今回 2024 年度最後の定例会では、卒業・修了学年のメンバーによる研究報告会を、flush メンバーのみならず日本トイレ協会会員も含めて参加者を募り開催しました。

2.卒業・修了学年のメンバーによる研究報告会

開催日時：令和 7 年 2 月 25 日（火）20 時～ 22 時

開催方法：Zoom によるオンライン開催

発表者：江藤克（横浜国立大学大学院 先進実践環境学環）

山本健人（京都大学経営管理大学 観光経営科学コース）

吉田楓（三重大学大学院）

3.研究内容

3.1 パラグアイ共和国農村部におけるバイオトイレの利用とその受容にかかる研究

江藤克（横浜国立大学大学院 先進実践環境学環）

本研究は、パラグアイ共和国の地方国立大学と農村部に建設したバイオトイレを事例とし、人々の利用の有無と受容のためプロセスを明らかにすることを目的とする。本研究は調査対象者が少ないものの、バイオトイレのような尿尿利用型のトイレを普及させるためには、以下の点が必要であることが明らかになった。①普及させるための仕組みづくりと②安価で水洗トイレのような清潔さのあるものの開発である。同時に、「開発」を実施する側には、排泄についての現地の人々の排泄物に対する認識への理解や用意したトイレの処理技術のデザインに改善の必要性があったことも明らかになった。



現地の人々が自ら手を加えられるシステムも必要であり、バイオトイレのコンセプトは残しつつ、その地域の文化的背景になじむトイレの開発が必要であることが本研究を通して明らかになった。

3.2 「観光地トイレ問題を解決 – 観光地トイレシェアリングサービスの提案

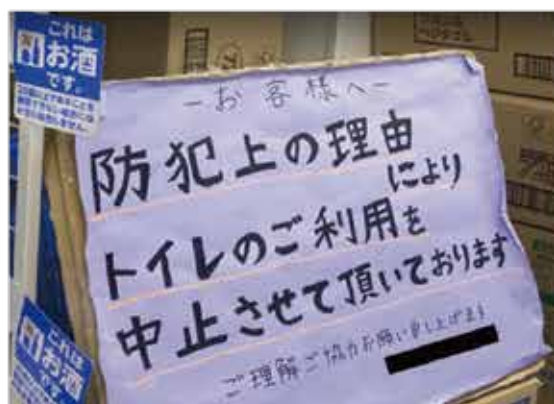
– 京都における観光人流・コンビニトイレ分析を事例に –

山本健人（京都大学経営管理大学 観光経営科学コース）

本研究では、観光地における公衆トイレの利用環境の課題を分析し、持続可能なトイレ環境を支えるビジネスモデルを提案しました。本研究では、京都市中心部にある 354 店舗を対象に実地調査を行い、さらに人口・観光客の流れに関するデータ分析を実施した結果、観光客の増加とトイレ閉鎖の間には密接な相関があることが確認されました。特に、観光客の増加がトイレの利用負荷を高め、それが閉鎖につながる「観光地トイレ閉鎖スパイラル」という現象が発生していることを示す概念モデルを構築しました。こうした課題を解決するため、本研究では観光地向けのトイレシェアリングサービス「TOIMAP」を提案しました。「TOIMAP」は、観光地のトイレを持続可能な環境にするため、清掃サービス、情報発信、マナー啓発の 3 サービスを提供します。現在試作で Web サイト <https://toimap.jp/> を作成し、実現化に向け、京都市など行政と実証事件に向けた協議を進めている段階である。

3.3 「FEM浸透流解析を用いた頭首工エプロン下部に形成された空洞による過剰間隙水圧の変化領域の検討」

吉田楓（三重大学大学院）



頭首工とは、堰により河川の水の流れを止め、堰上流側の水位を上昇させることにより、農業用水を取水するための農業水利施設である。2022 年 5 月、愛知県にある明治用水頭首工で取水が困難になる事故が発生した。具体的には、本来ならば堰で河川の水の流れを止めるべきところ、堰の背面に空洞が形成されたことにより上流側から下流側に水が抜けた状態のことである 1)。現状、今回の漏水の原因となった堰下の空洞の有無は目視での判断が主である 2)。そのため本研究では、堰下（下流エプロン背面）の空洞の有無を判断するための評価指標として、頭首工が設置されている透水性地盤表層の過剰間隙水圧（間隙水圧）に着目をした。堰下（下流エプロン背面）の空洞の形状や位置が変わると、過剰間隙水圧も変化するという仮説をたてた。本研究の最終的な目標は、このような事故が再度発生しないために、頭首工が設置されている透水性地盤表層の過剰間隙水圧を測定することによる堰下（下流エプロン背面）の空洞調査手法の開発である。しかし、現地で一度に透水性地盤表層全体の過剰間隙水圧を測定することは難しいと考えられる。そのため、本研究の目的は、シミュレーション（FEM 浸透流解析）によって間隙水圧計の効率的な設置位置を提案することである。

1) 東海農政局 HP,

<https://www.maff.go.jp/tokai/kikaku/meiji/220930.html> (2025/3/28 参照)

2) 農業水利施設の機能保全の手引き「頭首工」P57



若手の会 flush」では、参加メンバーを募集しています。
対象は、39 歳以下の法人会員、個人会員、学生会員です。
ご興味のある方は下記までご連絡ください。
連絡先 j.toilet.flush@gmail.com

「災害時のトイレ(携帯・簡易トイレ)」研修会

竹中 晴美 「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員長 / 運営委員

まさかの時に、自分を守るために、どうすればいいの？

講師：長谷川高士（ラピシュット合同会社代表）

日時：2月21日（金）18:30～20:30

場所：長崎市役所2階多目的スペース



長崎市の現状を伝える、みんなで共有する。

この度、長崎では初めてとなる「災害時の携帯・簡易トイレ」研修会を開催。長崎は地形的に見ても階段、坂道など、避難時には困難な地です。もしもの時、避難勧告が出されても、自宅待機がされる方が多い。しかも高台には高齢者が多く暮らしている。この現状を行政へ伝え、市民の意識向上のためにも、災害時のトイレの大切さを「知る・学ぶこと」の必要性を強く感じていたからです。当日は多くの方に参加頂き、日常生活ではあまり意識することのない、また知っているようで知らない「災害時の(携帯・簡易)トイレ」について学び、考える大きな機会となりました。

「携帯トイレとは？」から始まり、わかりやすく、楽しみながらの実践的なワークショップ、

講師の長谷川高士さんは、日本トイレ協会の会員。水道工事の仕事に20年以上従事、2016年からトイレ防災の講演活動を全国でされてきました。現在は熊本在住、災害時のトイレ対策の研究と啓発活動を会社の事業（代表社員）の一環として取り組まれています。

私たちが普段当たり前に使用している水洗トイレ。災害時には、この水洗トイレが主に断水が原因で、いつも通り使えなくなる恐れがあります。過去の大規模災害では、深刻なトイレ問題が数多く報告されました。災害時のトイレ問題は単なる「不便さ」ととどまりません。不衛生な環境による感染症の拡大や、エコノミークラス症候群、尿路感染症（膀胱炎）など、排せつを我慢することで発生する健康被害のリスクが指摘されています。こうしたリスクを軽減するために、災害時の排せつ物の処理方法の1つである「携帯・簡易トイレ」の基本についての講義です。

家にある素材でも活用出来る→ゴミに出せる

「携帯・簡易トイレ」を備蓄していても実際に使ったことがない、使い方を知らない人が多いのが現状です。長谷川さんの体験ワークショップは、参加者を6グループに分けて「水分を吸収して安定させる」という手順を実施。袋をかぶせたボウルの中に、250mlの水（尿として想定※水は1%の食塩水）を入れる。この水を「紙オムツ」、「尿とりパッド」、「猫砂」、「新聞紙」などで「水分を吸わせきる」ことが大きなポイント！（凝固剤（吸水性ポリマー）でも同様に実施）つまり水分（尿）を吸わせ切れば「ビニール袋は安定し、排せつ物をゴミに出せる」家にある素材であっても「トイレとして活用できる→それをゴミに出せる」というわけです。災害時は、まずトイレが困ります。水洗トイレが使えない。24時間トイレがない時でも、人は1日5～7回トイレに行きます。今回の研修会により、普段から「携帯・簡易トイレを備蓄する」ことの大事さ、また身近なもので自分を守ることが出来る何よりも誰でも出来る「自助」の大切さを学び合い、共有することが出来たと思います。

参加者の方々は、自治会、まちづくり協議会、コンベンション協会、民生委員、大学病院泌尿器科、防災士、消防団、介護関係、病院など、災害時のトイレに危機感を持っておられる方が多く、熱心に質問されました。

まとめ

災害時のトイレ問題は、単なる不便だけでなく、健康や命にも関わる重要な課題であることを再認識しました。きちんと水分を吸わせることでゴミとして出せる。そしてゴミ袋に「便です」と書く心使いを忘れないで下さい・・・と話された長谷川さんの言葉が心に残りました。

まさかの時の時に、どうすれば自分を守るのかを、様々な分野の方々と共有できたことは今回の大きな成果だと思います。

アンケート

長崎市では、災害時に40人あたりに1つの簡易トイレだとトイレ不足におちいると感じた。代用策として「吸いる方法」を知ることは大事だと感じました。売っているだけではなく自分で作れる事がわかりました。自分で作れる。準備が大事。長崎市の公式ライン（SNS）で研修内容をのせてもっとたくさんの人に知らせて欲しい。簡易トイレの使い方がわかって、気持ち的に安心しました。災害時のトイレの重要性がよくわかりました。汚物をゴミに捨てられる。捨てる方法がよくわかりました。このことを伝えていきたいと思いました。ガールスカウトで防災教育をやっていますが、参考になりました。ありがとうございました。バッグの中に入れておくのは良いなあと感じました。尊厳が守られると考えると大切なものだった。



事務局からのお知らせ

一般社団法人日本トイレ協会
JAPAN TOILET ASSOCIATION

〒105-0003

東京都港区西新橋3-15-12

GG HOUSE 5階

E-mail : info@j-toilet.com



<https://j-toilet.com/>

検索



広報部提案&推薦！出ました試作ピンバッジ！スッキリ爽やかなデザイン、よく見ると便器やピクトグラムサインが隠れています。QRコードとして公式サイトへ飛べます！投稿して下さいの方々へのお礼としてお送りします。

サイズ：19mm×19mm

編集後記

ようやく大阪・関西万博が開幕しました。準備段階ではさまざまな困難もあったようですが、無事に開催されたことは大きな節目と言えるかと思います。一方で、会場内のトイレ環境については、早くもいくつかの課題が指摘されており、注目すべき状況と受けとめております。多様性が重視される今、従来の設計では対応しきれない場面も見受けられます。私たち日本トイレ協会としても、直接の関与はないものの、現場の声や実態に目を向けながら、皆様とともに学び、今後の改善に活かしていければと考えております。(山戸伸孝)

来る5月15日で当協会は「40歳」となります。6月14日(土)に開催される総会では「40周年記念プログラム」が準備されています。皆様と40年を振り返る、そして懐かしいメンバーとの再会をとてん楽しみにしている一人です。(新妻晋宣)

子供の頃はあんなに楽しかったトイレ、ウンチの話、大人になると恥じらいからなのか避けてしまいがちですね。災害時の対策も同じです、関心の高まった今こそ日常会話にトイレの話をしたいですね。(谷本巨)

関西万博のトイレはネットで日々アップされ、無謀なまでのデザイン優先?!など話題が満載。中でも出入口が別、しかも開閉ボタンがわかりにくい。私は、きっと間に合いそうにもない。そんなトイレの「攻略法」まで登場。実は、1970年の万博でコンパニオンしておりましたが、若かったので広い会場でもトイレには、困りませんでした笑。(竹中晴美)

最近、ユニバーサルの視点で目にする耳にする機会が増えています。計り知れない苦勞を理解する想像力と、それを反映する実践力を、特に設計の立場から、実感しています。(浅井佐知子)

ボンタンアメを食べると尿意が消えるという話題がSNSで注目されています。長時間トイレに行けないライブ参戦時に便利だと話題になり、一部の店舗で品薄になるほどだそうです。糖質や炭水化物が含まれている食品は一時的な尿の減少も考えられるとのことですが真偽のほどはいかに。(佐分利恵子)

大阪万博・・・トイレ問題が取り上げられておりました・・・行こうか行かないか、悩んでおります。みゃくみゃくは個人的に好きなデザインなので、記念硬貨はゲットしてきました！(高橋佳乃)

昨年末に迎え入れた12歳のラブラドルレトリバーとお散歩を楽しんでいます。花が咲いて恋の季節の小鳥のさえずりと心が洗われる時間であるとともに息子たちと歩きながら普段向かい合っては話せないことをおしゃべりしながら歩く大事な時間です。(小澤美紀)